

シンビット® 静注用50mg の溶解調製法

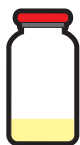
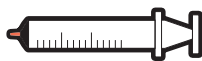
(ニフェカレント塩酸塩注射剤)

Shinbit® Injection 50mg

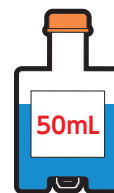
1バイアルを50mLに溶解(1mg/mL)する方法を例示します。

① 溶解準備 (用時溶解！)

① シンビットバイアル

② ディスポシリンジ
(20mLまたは30mL)

③ ピンク針(18G)

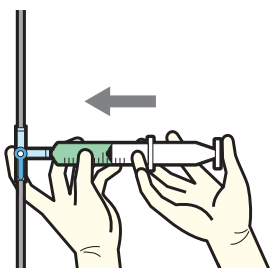
④ 生理食塩液50mL
または
5%ブドウ糖
注射液50mL

② 溶解・調製 (溶解液は24時間以内に使用！)

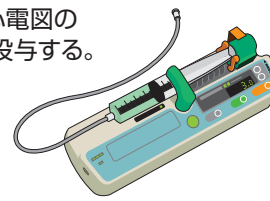
I. 50mL輸液ボトルより
適量(5mL程度)抜き取る。II. シンビットバイアルに
抜き取った液を注入する。
(シンビットの溶解を確認。)III. 溶液を全て
シリンジに抜き取る。IV. IIIで抜き取った溶液を、
元の輸液ボトルに戻す。

③ 投与

単回静注法

裏面の体重別投与量早見表を
参考に輸液ボトルより必要量を
シリンジで抜き取り、5分間かけて
心電図の連続監視下に
静脈内に投与する。効果の維持を期待する場合
単回静注が有効で

維持静注法

輸液セットもしくはインフュージョン
ポンプを用いて静脈内に投与する。
裏面の体重別投与量早見表を参考に
1時間あたり等速度で心電図の
連続監視下に静脈内に投与する。

1. 警告

1.1 施設の限定

本剤の使用は致死的不整脈治療の十分な経験のある
医師に限り、かつ諸検査の実施が可能で、緊急時に十分
対応できる設備・装置を備えている医療機関でのみ使
用すること。

1.2 患者の限定

他の抗不整脈薬が無効か、副作用により使用できな
いか、又は心機能が低下しているために使用できない致
死的心室性不整脈患者にのみ使用すること。

2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

2.1 QT延長症候群の患者

[本剤の作用によりQT時間が更に延長し、心室頻拍
(Torsades de pointesを含む)を誘発させるおそれ
がある。]2.2 アミオダロン注射剤、フィンゴリモド塩酸塩又はエリ
グルスタット酒石酸塩を投与中の患者[10.1参照]

4. 効能又は効果

生命に危険のある下記の不整脈で他の抗不整脈薬が無
効か、又は使用できない場合
心室頻拍、心室細動

6. 用法及び用量

〈単回静注法〉

通常、成人にはニフェカレント塩酸塩として1回0.3mg/kg
を5分間かけて心電図の連続監視下に静脈内に投与する。

〈維持静注法〉

単回静注が有効で効果の維持を期待する場合には、通
常、成人にはニフェカレント塩酸塩として1時間あたり
0.4mg/kgを等速度で心電図の連続監視下に静脈内に
投与する。

〈用法共通〉

なお、年齢、症状により適宜増減する。

投与に際しては、生理食塩液又は5%ブドウ糖注射液で溶
解して使用する。■「効能又は効果」、「用法及び用量」、「警告・禁忌を含む注
意事項等情報」等の詳細については、電子添文をご参照く
ださい。

★電子添文の改訂にご留意下さい。

二次元バーコードから電子添文をご確認いただけ
ます。[https://med.toaeiyo.co.jp/products/shinbit/
pdf/tenpu-snb.pdf](https://med.toaeiyo.co.jp/products/shinbit/pdf/tenpu-snb.pdf)専用アプリ「添文ナビ」でGS1
バーコードを読み取ることで、
最新の電子添文等を閲覧でき
ます。

シンビット静注用



(01)14987142392510

トアイヨー

シンビット® 静注用50mg 体重別投与量早見表

(ニフェカレント塩酸塩注射剤)

Shinbit® Injection 50mg

※「用量」・「体重」・「1バイアル(50mg)溶解液量50mLまたは100mL」から単回静注1回分または維持静注1時間分の必要液量(mL)を選択して下さい。

※単回静注は5分間で、維持静注は1時間かけて投与して下さい。

用量 (mg/kg)	体重 (kg)	投与液量(mL)		24時間維持静注に 必要なバイアル数
		1mg/mL溶液(50mLで溶解) を使用した場合	0.5mg/mL溶液(100mLで溶解) を使用した場合	
0.10	30	3.0	6.0	2
	40	4.0	8.0	2
	50	5.0	10.0	3
	60	6.0	12.0	3
	70	7.0	14.0	4
	80	8.0	16.0	4
0.15	30	4.5	9.0	3
	40	6.0	12.0	3
	50	7.5	15.0	4
	60	9.0	18.0	5
	70	10.5	21.0	6
	80	12.0	24.0	6
0.20	30	6.0	12.0	3
	40	8.0	16.0	4
	50	10.0	20.0	5
	60	12.0	24.0	6
	70	14.0	28.0	7
	80	16.0	32.0	8
0.30	30	9.0	18.0	5
	40	12.0	24.0	6
	50	15.0	30.0	8
	60	18.0	36.0	9
	70	21.0	42.0	11
	80	24.0	48.0	12
0.40	30	12.0	24.0	6
	40	16.0	32.0	8
	50	20.0	40.0	10
	60	24.0	48.0	12
	70	28.0	56.0	14
	80	32.0	64.0	16

●シンビット® 静注用50mg との 配合変化が確認されている主な薬剤

以下の薬剤は、シンビット溶解液との混合によって、直後から3時間後までの間に配合変化が認められていますので、特に、維持静注の際に同一ラインからの投与は避けて下さい。

利尿剤※	●ソルダクトン静注用100mg ●ラシックス注100mg
強心剤	●イノバン注100mg ●ドパミン塩酸塩点滴静注液 600mgバッグ「NIG」
不整脈用剤	●静注用キシロカイン2% ●アデホス-L コーワ注40mg ●タンボコール静注50mg
血液代用剤	●ヴィーンF輸液 ●メイロン静注7%/ メイロン静注8.4%
全身麻酔剤	●ラボナール注射用0.3g
催眠鎮静剤	●セルシン注射液10mg
その他の薬剤	●プロテアミン12注射液 ●ニコリン注射液250mg/ ニコリン注射液500mg ●ヘパリンNa注5千単位/ 5mL「モチダ」/ ヘパリンNa注1万単位/ 10mL「モチダ」

(2024年2月時点の製品名です。)

※利尿剤は併用注意です。本剤の作用が増強する可能性があります。